

## 「葛西オリンピック問題」への当会の取組み

日本野鳥の会東京・幹事会

2020年に開催されるオリンピック・パラリンピック（以下、五輪と表記します）に東京都が立候補し、国際オリンピック委員会（IOC）に申請ファイルを提出してから、間もなく2年を経過しようとしています。これまで当会は競技場のひとつを都立葛西臨海公園内に建設する計画に対し、その場所の自然を守るためいろいろな取り組みを進めてまいりました。昨年9月に東京での開催が正式決定したのを受けて、これまでの活動経過をご報告するとともに、これからのことについて方針を表明いたします。

当会は、東京都が2009年に今回と同じ葛西臨海公園にカヌーのスラローム競技施設を建設するという内容で2016年の開催に立候補した時も、東京都知事と五輪招致委員会、都議会各会派に建設地の変更の要望書を提出し、申し入れなど行ってきました。しかし、交渉を持つことは実現しませんでした。また、マスコミも要望書提出だけは伝えましたがその後の取材へとは展開しませんでした。この様な経験から要望実現には全国組織の〔公財〕日本野鳥の会の力を借りたいとお願いし、一緒に取り組むこととなりました。また、取り組みを広げるため、近隣の自然保護団体や日本野鳥の会の連携団体に団体署名をお願いし、昨年度末の段階で、130団体から支持をいただきました。

今回の活動に日本野鳥の会全体で取り組むようになった事が大きな力を発揮しております。前回実現しなかった交渉は、昨年度末までに7回実施しております。その中で明らかになったことは、計画自体が東京招致を実現するための初期的なもので十分練られた内容ではないということです。たとえば、観覧席は「常設12000席＋仮設3000席」とされていたのが「全て仮設」へと変わってきました。しかし一番大きな問題である「7～9メートルの高さから流れる300mの人工の川と毎秒13トンの流れを受け止める大きなコンクリートの貯水池」をもつ競技施設の計画はそのままです。

招致委員会がIOCに提出した初期段階の環境影響評価が昨年秋に公表されました（当会ブログで公開中）。その内容は、葛西臨海公園の自然環境

を正しく把握しているとは到底いえないものでした。当会は当面の重要課題として、代替地を含めた複数の場所についてもっと詳しい環境影響評価を実施するよう要求しています。ただ昨年11月28日の交渉では、代替地の環境影響評価を同時並行で実施することについては、都の担当部局は難色を示しました。

葛西臨海・海浜公園は「東京で人と海がふれ合える“最後の砦”として、葛西の海岸や三枚洲をすみかとする鳥や海の生き物を守り、人・水・緑がかなでる新しい街を作りたいという多くの人たちの願いを受けて検討かつ決断されたものである」との宣言のもとに造られた地域です。この優れた自然環境を破壊する愚かな行為をやめさせるにはもっと多くの方にこの実態を知らせていかなければならないと考えます。五輪開催が東京に決まり、カヌーは江戸川区で実施されるようだと思った方でも、葛西臨海公園の自然がピンチだという認識は少ないようです。地元区民を始め、いかに多くの都民に知らせることができかが今後の重要な活動のひとつとなると思います。また、並行して会員の皆さんが、どれだけ知り合いに広げられるかもキーポイントとなります。先頭に立って広報に努めて頂きますようお願いいたします。

葛西オリンピック問題への取組みは当会のさまざまな自然保護活動にとって蓄積すべき貴重な経験となるものです。今後とも理にかなった対応を継続していきたいと思ひます。

〔裏表紙もあわせてご覧ください。また、WEB署名での協力をお願いしています。インターネットで「野鳥の会 署名」を検索して“賛同”をクリックしてください。〕